

防潮堤の勉強会に参加して

8月より開かれてきた「防潮堤を勉強する会」に4回目を除いて参加させて頂きました。

いろんな意見やお役所の考え方、学識者のお話等々大変勉強に為り、この会を企画運営して頂いた方々に感謝いたします。

先日、市長との意見交換、質問回答が最終回として行われました。勉強会で感じたこと、それでも理解不能なことを三陸新報の20日の記事をもとに述べたいと思います。

市長は「高さは安全度そのものであり、話し合いや多数決で決めるものではない」と言います。しかしL1堤防はL2の津波に破壊され役に立たないと勉強しました。今回の計画高は安全度そのものではありません。また、決めるのは中央で、住民ではないと言います。中央防災会議で決めたことには反対できないと言いますが、その会議は昨年の被災直後に官僚が机の上で考え、菅直人前首相が決定したものと聞きました。福島原発の被害を増大させ、被災者を塗炭の苦しみに追いやって、なんの責任もおわず平然としている人です。どうしてそんな人の決定に従わなければならないのか理解できません。

また、今回に復興予算19兆円が計上されましたが、ご存じの様に被災地ではなく、全国いろんなところに使われています。つまり被災地の復興にすべて使われるのではなく、各省庁がなんらかのこじつけで復興予算を

獲得しているわけです

「省益あつて国益なし」という役人体質を表す言葉も勉強しました。ハイエナが群がり獲物を奪い合うがごとく、復興の予算を自分たちの利権の為に奪い合う下劣な行為で、そこには被災した人達の姿はありません。どうしてそのような官僚の省庁の決定に従うのでしょうか。

先の戦争時「戦艦大和、武蔵」が建造されましたがこれは大蔵省最大の査定ミスのひとつと云われています。日露戦争の勝因と為つた「日本海海戦」の成功に酔いしれ、40年後に時代遅れとなつていた巨艦を建造し、結局ほとんど役に立たず戦闘機に沈められました。今回の巨大防潮堤はそれをなぞるものではないでしょうか。戦後の高度成長期に行った政策を、まったく時代にそぐわず、50年後100年後には人口が半減すると予測されるなか、巨大防潮堤建設は戦闘機の時代に巨大戦艦を作つたごとくに、官僚の権益確保と自己保身でしかなく、住民に不要のものと思います。

50年後に備えての防潮堤と云いますが、逆に50年前を思えば、テレビがやっと普及しはじめ、電話のない家庭もありました。今はテレビ付の携帯電話を個人がポケットに入れていました。国家予算で買うしかなかった巨大なコンピュータが、今は手のひらに乗り個人が持ち運べて、さらには世界と通信できます。

当時のSFの世界が今現実になつているのに、おこがましくも現代人が未来をコンクリートで

固めようとしています。

今回、50年後には劣化し強度が落ちるコンクリートより、自然と調和し50年後には強度が増す、フォレストベンチ工法があると勉強しました。また、コンクリートの護岸のかわりに岩礁を造ることで高波を抑え、しかもアワビなど海産物を増やし、漁獲高を上げた実例も知りました。しかし造ろうとしているのは前例通りのコンクリート、それも海とのつながりを遮断する高い高い壁です。

50年後には津波対策が進歩し波高や到達時間などは瞬時に把握し避難できると思いません。さらには津波を防ぐ技術が開発されているかも知れませんがそれを震災時にたまたま担当した官僚が前例に従い、訴訟を起こされないよう、前より高くし安全をうたえばよいと決めてしまふ。それに政治家も地方行政も疑問も抱かずただ従う。おかしな話です。

市も県も今すぐ造らなければ今後造れないと言いますが、出来てしまったら壊せないでしょう。50年後に禍根を残すことになったら誰が責任を取るのですか。いま現在の政治家や官僚は造ることで利益を得るでしょうが、誰も責任を取らないことは明確です。しかし今ここで暮らす人達はどうかでしょうか。ここで暮らそうとしている子供や孫はどうなるのでしょうか。海を見られず遊べず堀の中で暮して行かなくてはなりません。

市長への質問の答えの中で「防潮堤はライフジャケット」と比

輸しました。「今は色も形も素材も色々ある」と言いましたが、今回計画されている防潮堤は「鎖と鎧」です。安全には必要だと言いますが、それは陸上からの視点で、工場は守れるのかもしれないかもしれません。しかし海からみれば、生態系を壊し、海産物が取れなくなり、景観を壊し、観光が駄目になり、自然を壊し、ひとが住まなくなります。コンクリートの防潮堤は自由を奪う鎖であり鎧です。

北海道の奥尻島は津波の後、コンクリートで高い防潮堤を造り高台移転したと聞きました。最盛期には島民人口は8500人で今は3000人だそうです。毎年5%前後の減少が続いているとのこと。

今回の復興計画が根本的におかしいのは、防潮堤の高さが決まらなければ復旧復興の仕事をさせないという意向です。最初にすることは生活基盤を再構築することなのに、なぜそれを後回しにして防潮堤を造ることとまい進するのか理解できません。

水没する土地をそのままに、ひとに住むなど一方的に規制しておいて、そこを買い上げもせず、代替地を用意する訳もなく、高台移転も被災者用住宅の進展も遅々として進まず、ただ防潮堤の計画だけが着々と進んでいます。

「海と生きる」と標語に掲げながら、一年7ヶ月もの間、なぜ漁港を修復しないのか。

財産は海の中にあるのに、財産を守ると言いながらなぜ海

を破壊しようとするのか。

そして堤防を建設する理由として「守るのは財産と命で、財産には社会資本と産業設備も含まれる」と回答しています。それはその通りでしょう。しかし社会資本も産業施設も造らず、先に堤防を造るとは順番が逆です。津波のシミュレーションが正しいとすれば、次に来るL1津波は数十年後から百数十年後です。まずかさ上げをして社会資本と産業設備を造ってからでも遅くはないでしょう。

「L1堤防を造らなければ気仙沼は見捨てられ、次の津波が町を滅ぼす」とありますが、堤防造りをしている間に生活できない人はいなくなり、次の津波が来る前に滅びてしまうのではないのですか。規制されて工場が造れず、気仙沼から出て行く企業が現実にあるのですよ。

市も県も国の意向に沿うだけで、住民の生活を考えていません。公共工事は住民の生活向上の為に行われるとも聞きましたが、この一年7カ月行政はなにをしたのですか。

お役所は一度決めると変えようとしません。八ツ場ダムは60年前に計画され、事業費その他で総額880億をかけていまだ完成しておらず、集落は廃墟と化して、その間に天下りしたお役人は数百人に為るそうです。

今三陸海岸に計画されている防潮堤は八ツ場ダムの比ではありません。自然破壊と住民離散を、国を挙げて推進するといふ愚行計画です。

日本は1000兆円もの借金を抱えていながら、さらに借金を増やす計画を立て、それを遂行しようとしています。国民が望むものならともかく、住民の多くが疑問を持ち、反対しているものに多額の税金が使われようとしています。

どうかあの無責任な菅直人政権が決めた計画を見直し、官庁官僚の利権の為ではなく、住民の明るい未来の為の復興計画に作り直していただきたい。

大島中学校仮設住人

熊谷雅裕

2012年10月5日 作成